

## 令和3年度 第3回米沢市SDGs推進協議会 会議録

- 1 日 時 令和3年11月5日（金）午前10時～
- 2 場 所 庁議室
- 3 出席委員  
委員 副市長（会長）、伊藤優子副会長、五百川満委員、大和田浩子委員、川野敬太郎委員、佐々木恵委員、柴田正孝委員、須藤英喜委員、曾根伸之委員、田畑広志委員、中澤未美子委員、吉田正幸委員、四柳徹也委員 以上13名  
（安部里美委員、伊藤浩志委員、菅野紀生委員、香坂洋平委員、齋藤美綺委員、中川浩一委員は欠席）  
アドバイザー 谷中修吾先生（オンライン出席）  
事務局 企画調整部長、政策企画課 課長、課長補佐、企画調整主査、担当

### 4 会議録

#### （1）開会

#### （2）会長あいさつ（要旨）

会 長 少しずつ形になりつつあり、皆様に感謝している。皆様の机上のSDGsのバッジは、置賜の桜材を使ったもので委員の皆様にお付けいただきたく事務局にて準備した。今日もまた、忌憚のないご意見を頂戴できればと思う。

#### （3）アドバイザーあいさつ（要旨）

アドバイザー 冒頭にお話させていただきたいが、この協議会と並行し、学習会ということで米沢市職員向けSDGs研修を担当させていただいた。これはSDGsのプロジェクトを企画する力を育成しようとしたもの。

プラットフォームに関して今年、地域循環共生圏、いわばSDGsプラットフォームの作り方の手引を出したが、その中の価値創造型の事業設計という話と紐づけて研修の中で伝えた。地域でプラットフォームを作る時に、いろんな地域の中の事例がたくさんあり、その話を聞きに行き、コンセプトを描いてストーリーを作り、地域全体で誰がやるかを考えてみた。研修の中でSDGsを実践している米沢市の団体で何があるかをいろいろブレストしてもらった。先んじて様々なネットワーク化やアワードを進めている米沢ブランド戦略課のように地域の事例を知っていることは大事だが、そこから地域のコンセプトを描くということをやった。

米沢市のSDGsとは何かというキャッチコピーを、職員の自由な発想で考え、堅い計画というよりも、理想的な絵姿を考え、それに対し目標を立てる、すなわちどの部署の誰がそれをやるのかを考えてもらった。これを市全体で考えれば、各取組をどの団体がやるか、ということ。

全体像を見ると、まず地域の中に眠っている事例を洗い出すことはやはり大

事かと思う。コンセプト、象徴的な事例、ロードマップ、目標とある中で、どういふ団体があるのかという見える化した部分を、このコンセプトと紐付けると結構面白くできると思う。

研修の中で職員自らによりたたき台ができた。米沢市の SDGs のコンセプトをプラットフォーム全体として、皆さんそれぞれの専門知見を合わせるとあつという間にプラットフォームの構想というものができると思う。

今日は市内の団体の皆さんをどうコネクしていかるといふ話が出ると聞いているので、もしかしたらご参考になるかなと思ひ、報告も兼ねながら、冒頭にご紹介させていただいた。

#### (4) 議事 (要旨)

(設置要綱第7条により、会長が議長となり進行)

会 長 それでは議事に入る。議事の円滑な運営につきまして委員の皆さんのご協力をお願いしたい。

事務局 ((1) 米沢市 SDGs 未来都市計画 (案) について資料1に基づいて説明)  
(質疑なし)

事務局 ((2) SDGs プラットフォーム (案) 等の概要説明について資料2に基づいて説明)

委 員 プラットフォームについて、「わたしのいっぽ」非常に良いアイデアを出していただいたなと思っている。プラットフォームの図を見ると、関係各団体とあるが、第1回協議会でも話があった高齢者の方が抜けているかなと思ふ。例えば敬老会であったり町内会であったり、そういう関係の方々の参加もできるようなスキームがあったらいいなと思ふ。また、SNS やホームページ等活用しているかと思ふが、やはり市広報での定期的な事例紹介ということも効果的だと思ふので、回数重ねて頻繁に紹介していただくことが有効かと思ふ。それから SDGs 関連動画を作成していただいたら、こちらも SNS だけではなく NCV さんの協力で放映していただくなど、周知をいただけると大変ありがたい。

事務局 1 点目の高齢者の参画について、社会福祉協議会を含め様々な団体にお声かけをさせていただきながら、高齢者の方々の取組はまさに SDGs の取組で非常に多いと考えているので、皆様にもご参画いただけるように取組んで参りたい。

2 点目の市広報については、回数、或いはどういった紙幅というところについては、今後内部での検討も必要になってくるが、なるべく多く取り上げることで、皆様に届くような形にして参りたいと考えているので、今後ともご意見等を寄せていただければと思ふ。

3 点目のこれら取組の SNS や NCV 放送での周知ということであるが、せっかく作った動画が、皆様に見られて初めて意味があるというところもあるので、今いただいたご意見をもとに進めて参りたい。

委 員 プラットフォームも SDGs 未来都市計画の一つということであるが、冒頭で谷

中先生からもご説明あった地域循環共生圏ローカル SDGs と、今回の SDGs 未来都市計画のこの関係性を説明いただきたい。

事務局 地域循環共生圏については、今年度 4 月に環境省の方から選定を受けたところで、プラットフォームとその地域循環共生圏でいうところのプラットフォームというのは、大きく違いはないと認識しており、今回のプラットフォームを作っていくことで、環境省の部分のプラットフォームも作っていけると考えている。

委員 そうであるならば、プラットフォームの内容に、地域循環共生圏、ローカル SDGs の内容も言及してもいいのかなと思う。最初の会議資料にあった地域循環共生圏の事業計画の中には、とにかくプラットフォームで何かやるというヒントばかりなので、これを中心にしてやっていけば、プラットフォームの中身がかなり充実してくるのかと思う。実際このプラットフォームの中に、ローカル SDGs 循環共生圏というのを、もう一つのメインテーマぐらいの勢いで入れた方がむしろ進めやすいのかなということもあるのでご検討いただきたい。

会長 ご意見を受け取らせていただき、事務局で検討をお願いしたい。

委員 「わたしのいっぽ」運用指針（案）の、3 申請できる者の基準と、4 禁止行為について、具体的な例を羅列するのはよいとは思いますが、SDGs のコンセプトに貧困なくそう、誰 1 人取り残さないというコンセプトがある中で、少し見せ方に工夫しないと排除的な表現になるかなと感じたので、ご検討いただきたい。

会長 ご指摘いただいてなるほどと思った。書き方という点で見せ方、やはり工夫が必要なのかもしれない。事務局で検討いただきたい。

委員 高校生の目線で拝見したが、もし子供たちが取り組もうとしたときに、どう提出するのかと思った場合、まずメールと郵送でと運用指針の中に書いてあるが、あまりメールは最近使わなくなったと感じる。例えば入力フォームのようなものを設定して、そこに書き込めるような形にすれば、手軽にスマートフォンなどからたくさんの市民の方が、手を挙げてくださるのではないかな。

別の視点からだが、6 ページに「多様な主体をつなぐ」という表現がある。つなぐということが、いくつかの団体や個人の間をつなぐということだとすると、例えば高校生と中学生をつなぐ、小学生と高齢者の方をつなぐなど、そういう視点がつなぐということなのかと個人的にはイメージを持ったところだ。①から③の中での表現が、意見交換の場を設定するということではあると思うが、例えば、中学生が小学生に SDGs について教える、大学生が高校生と一緒に活動するなど、そういう意味でのつなぐというような意味合いを、どこかに盛り込めないかと思った。

次の 7 ページを拝見すると、そこに、研修会の開催や出前講座の派遣という表現が出ている。例えば市で出前講座などをするとき、大学生や高校生がそこに、補助的な役割で参画するなど、高校生として学んだことを、中学生や小学生にわかりやすく伝える場を持とうかなどということを実際に考えている。そういうことなどを、つなぐという概念の中に入れていただければありがたい。

最後のイメージ図だが、上下関係はないという説明はあったが、最終到達点

が品質アワードのところに到達しているように見える。色合いや星印の位置もあると思うが、第1印象として改善の余地があると思ったので、ご検討いただければと思う。

事務局 1点目の「多様な主体をつなぐ」については、事務局としてはSDGsそれぞれの分野があるので、お寄せいただいた事例の内容に沿って集まる場を設定できるのかなと考えていたが、今委員からご指摘あった形での意見交換の場の設定もできるのかなと改めて感じた。そういった視点を持ち、つなぐ場というのを設定していければいいなと思う。

このピラミッド型のイメージ図だが、先ほど説明したパブリックコメントの意見や、協議会の方からのご意見のとおり、やはりブランド戦略との違いがなかなかわかりづらいということで、当初予定していた登録と表彰制度は今回しないとしたところ。

市内では今SDGsがキーワードとなっており、いろんな取組をされている方が多い。ただ、他の人がどういった取組をされているかわからないという現状もあるので、できるだけいろんな事例を集めて市として紹介し、SDGsってこんなことなのだということを広く市民の方にわかっていただく場として、このプラットフォームを考えている。ブランド戦略の取組について、当然SDGsと結びついているところがある。ブランド戦略については、品質向上ということで高みを極める、高みを目指すといった部分があるが、SDGsの取組が、中にはブランド戦略にも結びついていくようなイメージで、決してブランド戦略とSDGsのプラットフォームが別物ではないと考えている。イメージ図の見せ方については研究したい。

委員 この「わたしのいっぽ」というのは、なかなかいい。しかし、裾野を広げるという意味ではいいが、今から取り組むようなことばかりが目されるのではないかと思う。今もう取り組んでいろいろやっていることもある。例えば小学校、中学校高校の中で、いろんな活動の中でこのSDGsに取り組もうと思ったときに、ある意味、かなり初心者的なイメージがあるのかと思った。そうすると、上杉鷹山のスピリットというのを、前面に押し出すような形にするのであれば、例えば個人の考えだが、「わたしのなせばなる」などとして、初心者向けのものと、そうでないものと住み分けというか、そうしないと本当に初心者的なものしか出てこなくなるのではないか。SDGsも取り組んでいて、もっと洗練してやってみたいというようなところの対応には、余りにも低いものになってしまわないかと思った。

可能かどうかかわからないが、米沢のSDGsの取組は上杉鷹山を前面に出すということで、せっかくこのバッジがあるので、このバッジに手を加えられるかわからないが、この中に上杉鷹山の石像にあるようなもの（指を指すような姿）をつけられたりすれば、前面に盛り上がるようなものができあがるのかと思ったところ。

それから、イメージ図で、山の形になっているから上下関係に見えるということがあったが、同じ高さにして、矢印で示していくようなイメージだと、上

下というのは、ある程度解消されるのかなと思った。

会長 ピラミッドのあり方については次回お示しして皆様からご意見をいただきたい。「わたしのいっぽ」の言葉からすると、小学生も書きやすいようにということだと思うが、今ご指摘あったように、やはり上杉鷹山スピリットをとということからすれば、もう少し違うあり方もあっていいのではないかとご意見だった。

委員 中学校で生徒が取り組む中で、一人一人どんなことをするかをホワイトボードに書いて、写真を撮って、廊下に掲示しているが、電気を消すなど、だいぶ差があり、かなり幅広いものがたくさん出てくるだろうというように感じた。一人一人の考えていることを掲示していいなと思っているが、今度逆に多すぎてみんな見なくなる。やはりある程度洗練されたものを出すなど、しっかり分類をして掲示していかないと、なかなかこの大量のものに目を通すことが逆にできなくなってくるところがあるのではないかと少し感じた。

副会長 プラットフォームの方で、動画作成について入れていただき大変ありがたい。「わたしのいっぽ」を提出する際に、手書きで出す方もいれば、データで出される方もいると思う。写真或いは動画のデータなどもつけたい方もいるかもしれない。パワーポイントでしっかりと資料を作る方もいるかと思う。統一感ということであればこの書式でということになるかとは思いますが、ある程度別書式でもOKみたいな自由度があると出しやすいのかなという印象はあった。

あとはホームページにこれを掲載すると思うが、これは質問にもなるが、米沢市のホームページのトップページに行くと、そこから別のリンクに飛んでいくという形を想定しているのか。ポータルサイトで作るということであれば、米沢市のSDGsのサイトの中に、米沢市の取組がすべて集約されているという形になっていると非常にわかりやすいと思うので、「わたしのいっぽ」もそうだが、米沢市としてこういう取組をやっているということを、そこにすべて集約しえる形が作れば望ましいと感じた。

事務局 ご意見ご質問いただいた点については、ホームページ上に、SDGsの取組を集約するページを新たに設けるかどうかというのを検討しており、ご提出いただくペーパーをPDF化して掲載していきたいというように考えている。その中で、例えばゴール1の取組を選択すると1の取組、ゴール2を選択と2の取組がずらりと出るような仕組みを作れないかなというところで検討しているところだ。

事務局 1点補足をさせていただくと、取組を掲載するのもそうなのだが、それ以外に今おっしゃったような、例えば米沢市として、SDGsの取組はこういうことをしているなど、そういった様々な情報をそこに集約できるように取り組んでいきたいと考えている。

会長 様式についてはもう少し柔軟性があっていいのではないかと。別な様式で書いたり、写真に撮って貼り付けたりだとか、或いは分類してというのもありではないかということもぜひご対応をお願いしたい。

委員 「わたしのいっぽ」でのアンケート方式についてももう少し聞きたい。

事務局 「わたしのいっぽ」 というものが、もしかして登録制度というような認識を持たれる部分もあるのかなと思い、アンケート方式も考えたところだ。アンケート方式にした場合は、記載いただく中身について大きく変えるということではなく、先ほど谷中先生からお話あったように団体の皆様にアンケートと称して、それぞれの取組をどのようなものをしていきますかということをお聞かせいただく形になるのかと考えているところ。

委員 「わたしのいっぽ」は、どのタイミングで運用を始めるのかを教えてください。

事務局 この後、今日いただいたご意見をもとに、次回この協議会の開催が1月を予定している。そこで固めて、概ね来年度から始めたいと考えている。

委員 実際「わたしのいっぽ」は、アンケートなり、登録フォームなりで、市民の皆さん、企業の皆さん、子どもたちから募る企画だと思うが、SDGsが何なのか分からない人もまだいると思う。そちらを醸成してからこれを書いてもらった方がより具体的な意見が出てくるのではないかな。それこそ、中学校の子供たちの電気を消すなどそれもいいとは思いますが、やはりSDGsとは何なのか、米沢市としてどのようにSDGsを推進していくのかを示し、それこそローカルSDGsも含めて、土壌を築いてからがいいのではないかな。逆にプラットフォームで意義のあることをやった上など順序立ててからのほうが、色々な意見がきて収拾つかなくなるというよりは、もう少し方向性を示しながら集めれば、内容的には濃いものができるのかなと思う。作って終わり、発信して終わりではなく、何か意味のあるものを集約していきたいという思いもある。

その条件というわけではないが、勉強会、研修会やイベントなどに参加していただいた方の感想文的な感覚で、「わたしのいっぽ」をやっていった方がいいのかなと思った。来年度から始めるよりは、タイミングも大事になると今思ったところだ。

事務局 先ほど質問があったホームページの作成については、市のホームページの中に入れるのではなく、SDGs専用のホームページを作成したいと思っている。米沢のSDGsは何だというときに、そのホームページを見ればわかるような形にしたいと考えている。委員が仰る通り、確かにSDGsをまだわかっていない方もいらっしゃると思うので、そのホームページの中でSDGsとは何だ、米沢市でやっているSDGsは何だというものを具体的にきちんと紹介して、まずは理解してもらうことが重要かと思う。その上で関心を持ってもらい、すでに実践している取組や、これからやろうと思っていることなどをお寄せいただいて、それを発信していけばいいと考えている。そうやって裾野を広げて、市民の一人一人が、本当にSDGsに取り組んでいけば、米沢市が持続可能なまちになってくる、そんなイメージで今のところは考えている。

(3) その他  
(特になし)

## 5 その他

事務局 (その他として、SDGs のバッジについての紹介、次回の第 4 回推進協議会の日程調整について説明を行った。)

(最後に全体を通して、谷中先生よりコメントをいただいた。)

アドバイザー 先ほど出た「わたしのいっぽ」の話だが、いわゆるアンケート的な要素と宣言の要素とがあると聞いていて感じた。「SDGs のなせばなる」というアンケート、「SDGs のなせばなった」というような、実際にやってみたという宣言して実践してみたというものも拾い上げられると面白いのではないかと思った。プラットフォームそのものに関しても、いろいろ皆様のご意見を伺って、未来都市と環境省の方の話は、全部統合してよいということで国の方からも確認できているので、今日の話は全て具体化して、また実践できると思う。今後実際、形にしていくときに、何か新しいものを作らなければならないというよりも、今ある活動を再定義するだけでいろいろなリストができるのかなと思うので、その視点で今日皆様のご意見を基にブラッシュアップすると、時間をかけずに米沢の SDGs とはこういうものだというのが、すぐに見える化できるのではないかと思った。

## 6 閉会

以上